

2009/02/03
読売朝刊

元学区 ものがたり

修 徳

絆育むまちづくり憲章

⑮

2005年の調査では、旧住民550世帯に対し、マンション住民は1200世帯。修徳まちづくり委員長の小西宏之さん(76)は「すれ違えばあいさつを交わす昔ながらのまちも、お互いを知らない住民が増え、変わりつつある」と嘆く。

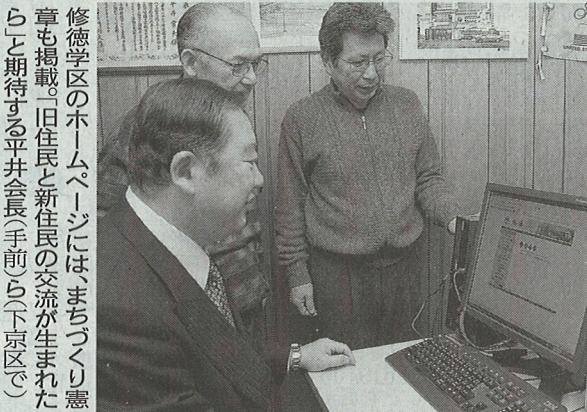
「町並みが乱れ、地域の絆が失われていく」。危機感を抱いた平井さんらは03年、「まちづくり憲章」の策定に着手。住民参加のワークショップを重ね、06年、「顔の見える絆の強いまち」「昔から大切にしてきたものと、今の暮らし方との調和に配慮した町並みがあるまち」など五つのテーマを発表した。

具体策として、伝統的な意匠を取り入れた家やマンションの建築例を写真入りで説明。新住民のために「仮想マンション町内会」を考案した。自治会に所属しなくても、希望すれば、町内会の情報を連絡。現在、マンションの42世帯が参加する。

「修徳小は、日本で最初に授業をした小学校なんですよ」

明治政府の学制発布より3年早い1869年(明治2年)、町衆が資金を出し合い、相次ぎ開校した64の番組小の中で、いち早く授業を始めたとされる旧修徳小(下京区)。卒業生で、修徳自治連合会長の平井常夫さん(70)は「住民の誇りがここにある。小学校を核として、地域の絆が育まれた」と胸を張る。

和装産業が盛んで職人が多く、町家が並んでいたが、バブル崩壊後、マンションが増えた。



修徳学区のホームページには、まちづくり憲章も掲載。旧住民と新住民の交流が生まれたら「二期待する平井会長(手前)ら(下京区)を練る。

「地域を育むまちづくり」を練る。

■修徳学区 1869年(明治2年)、下京第十四番組小学校として開校した。修徳の名は74年から。1992年、開智、豊園、有隣、格致の4小と統合し、洛央小が誕生した。「修徳」は、中国の古典「詩経」に由来し、同小を訪れた伊藤博文が書いた額「脩厥徳」(そのとくをおさむ)が京都市学校歴史博物館に残っている。廃校後の跡地は2001年から、特別養護老人ホームや児童館などを併設する総合施設として使われている。

「地域の絆を取り戻し、安全で安心なまちにしていきたい」。平井さんは力を込めた。

(竹田昌司)

「元学区ものがたり」は、第1、第3火曜日に掲載します。地元「元学区」自慢、この連載についてのご意見、ご感想などをお寄せください。〒604-8116 2京都市中京区烏丸通六角下る七観音町630 読売新聞京都総局「元学区係」ファクス075・241・49800「kyoto@yomiuri.com」。